

2025.03
Spring



あーすん
岩手県国際交流協会
イメージキャラクター

いわて国際交流 世界はともだち

 モンゴルでの素晴らしい経験 (詳しくはP.8で)
More details on page 8 / 详情页面P8

特集

P.2

多様化する日本、岩手。 外国人とのよりよいコミュニケーションを目指して

Diversifying Japan and Iwate: Towards Better Communication with Foreigners

日本和岩手正在实现多样化。以加强与外国人的交流为目标



多様化する日本、岩手。

外国人とのよりよいコミュニケーションを目指して

日本人の人口減少、労働力不足が急速に進む中、日本全体そして岩手県における外国人の割合が高まってきただけではなく、その出身国や文化的背景も多様化しています。私たちにとってより身近になり、地域を支えるためにも無くてはならない存在である外国人と、文化の違いを尊重しながらよりよいコミュニケーションをとるにはどうしたらよいのでしょうか。岩手県国際交流協会では、外国出身の方や、多様な背景を持つ方の経験談から、このことについて考えるパネルディスカッション「いざというときに試される 異文化コミュニケーションの力」を2025年2月14日(金)に開催しました。当日の内容をお伝えします。



日本の生活が大好きというフェリスさん、日本人・外国人どちらの気持ちもわかるという西澤さんから見た日本の生活・社会の気になっていることについて話していただきました。

見た目による思い込み

パキスタンにもルーツがある日本人であり、イスラム教徒である西澤さんは、多くの日本人が見ただけで判断しがちだと指摘します。英語で話しかけられたり、接客の際に丁寧な日本語を使ってもらえなかったりすることがあり、普通の日本語で答えると驚かれるそうです。自身と同様にミックスルーツの友人や外国籍の友人の写真と撮った写真を見せながら、「一見ただけだと外国人の集まりに見えて訝しげに見られることもあります。みんな日本語で日本の話題について話すんです。日本語しか話せない人もいます。見た目は全く関係ないんです」と話してくれました。

外国人だとネガティブな面が強調されてしまう!?

フェリスさんは気になったこととして、マスコミによる外国人のネガティ

ブな面の過剰報道を挙げてくれました。自身が富士山に登っていた時に来ていたTVの撮影クルーに尋ねると、「マナー違反をしている外国人のみ」を取り上げるとのこと。「マナーを守らない外国人がオーバーツーリズムの問題を引き起こしている」という、すでに用意されたストーリーに合致させるための取材しかしていなかったことにショックを受けたそうです。また、悪意はなくても「外国人が増えると犯罪が増える」と思い込んでいる日本人の友人もいて、本当のことではないのに外国人に悪印象が持たれていることが残念だと言います。さらに、日本人と同じことをしていても外国人だと過剰に注意されることは日常的にあるようで、「外国人グループが外で音を出しているとすぐに警察に通報されるけど、日本人グループがもっと大きい音を出していても通報されない」といった経験も教えてくれました。

進行・解説

岩手大学 副学長 国際教育センター教授
松岡 洋子 氏

専門は日本語教育、移民政策、多文化コミュニケーション。大学で留学生の日本語教育および日本語教師養成を担当する。

パネリスト

ウィリアム フェリス 氏

アメリカ合衆国出身。日本在住20年以上。アウトドアガイド、インバウンド観光ガイドを通じて、東北を中心に日本全国で訪日外国人の受け入れと対応に関わっている。

西澤 シャールフ 氏

パキスタン人の父と、日本人の母というミックスルーツの日本人。パキスタンにも半年間住んだことがある。イスラム教徒として盛岡マスコド(モスク)に通う中で、様々な国・人種の人たちと触れあう機会が多い。

よりよいコミュニケーションへの鍵は、思い込みを無くすこと

この日、パネリストのお二人が語ってくれたことから、日本人の多くが、外国人や外国人のような見た目の人に対して「○○に違いない」という思い込みをしているということに気づかされました。まずはこの思い込みに気

づき、少なくしていくことが、外国人に限らずよりよい関係を築く鍵になるのだと感じられました。

松岡先生の経験によると、「学生を1週間位合宿させると、○○人(じん)から○○さんになる瞬間がどこかである」そうです。異なる文化背景をもった相手をどのように受け入れて

いくかに正解はありませんが、一人の人間として相手に向き合い、もっと理解したいと思えるようになることが最初の一步なのではないでしょうか。そのような機会を作ることに岩手県国際交流協会もより一層貢献していきたいと思います。

FY2024 Multilingual Disaster Support System Creation Project: Event Report

Diversifying Japan and Iwate: Towards Better Communication with Foreigners

As the Japanese population declines and labor shortages rapidly worsen, not only is the proportion of foreign residents in Japan and Iwate increasing, but their countries of origin and cultural backgrounds are also diversifying. Given foreign residents are becoming more common and are indispensable in supporting the local community, how can we better communicate with them while respecting cultural differences? On Friday 14th February 2025, the Iwate International Association held a panel discussion: "The power of intercultural communication put to the test in times of crisis." This issue was considered from the point of view of a foreign national and a Japanese national of diverse cultural background. The following is a report on the content of the day's discussion.

Presentation and commentary

Prof Yoko Matsuoka

Vice President and Professor at the International Education Center, Iwate University

Specializes in Japanese language education, immigration policy, and multicultural communication. Prof Matsuoka is responsible for the Japanese language education of international students and Japanese language teacher training at the university.

Panelists

Mr. William Faris

Originally from the United States, Mr. Faris has lived in Japan for over 20 years. Through his work as a tour and outdoor guide, he is involved in welcoming foreign visitors throughout Japan, mainly in the Tohoku region.

Mr. Nishizawa Shahrukh

Mr. Nishizawa is a Japanese national with mixed roots, a Pakistani father and a Japanese mother. He has lived in Pakistan for six months. As a Muslim, he has many opportunities to interact with people of various nationalities and backgrounds while attending Morioka Masjid (mosque).

Mr. Faris, who loves life in Japan, and Mr. Nishizawa, who understands the feelings of both Japanese people and foreigners, talked about their concerns regarding Japanese life and society.

Preconceptions Based on Appearance

Mr. Nishizawa, a Japanese Muslim of Pakistani background, points out that many Japanese people tend to judge people based on their appearance alone. He says that sometimes people speak to him in English, or don't use polite Japanese at restaurants or stores, and when he responds in fluent Japanese they seem surprised. While showing photos of himself with friends of mixed backgrounds like himself or foreign nationalities, he said, "At first glance, people may look at us with suspicion because we look like a group of foreigners, but we all talk in Japanese about Japanese things. Some of these people can only speak Japanese. You can't tell anything from appearance."

The Negative Aspects of Foreigners are Emphasized !?

Mr. Faris mentioned the over-reporting of negative aspects of foreigners by the mass media as one of the things that bothered him. When he was climbing Mt. Fuji, he noticed a TV crew and asked

them what they were filming. They said they only focused on "foreigners acting badly." He was shocked that they only covered such cases in order to match the story already prepared, that "foreigners who don't follow the rules are causing the problem of overtourism." He also said that one of his Japanese friends believes without malice that "if there are more foreigners, there will be more crime," and that it is disappointing that some Japanese people have a bad impression of foreigners based on something that is untrue. Furthermore, he said that even if foreigners are only acting in the same way as Japanese people, they are often overly reprimanded just because they are foreigners. For example he shared with us his experience that "if a group of foreigners were making noise outside, people would call the police immediately, but even if a group of Japanese people were making more noise, the police would not be called."

The Key to Better Communication is to Tackle Preconceptions

From the testimony of the two panelists, we realized that many Japanese people have the preconception that foreigners or people who look like foreigners "must be like that." We believe that the key to building better relationships with everyone, not just foreigners, is to first

become aware of these preconceptions and then challenge them.

According to Prof Matsuoka, "when ever Japanese students go on week-long residential training programs with foreign students, there is always a moment when their perceptions of the foreign students change from 'the person from this country' to 'this person'." There is no

right answer for how to accept people with different cultural backgrounds, but the first step is to treat them as an individual and make an effort to understand them better. The Iwate International Association would like to continue contributing to creating such opportunities.

关于2024年建立多语种灾害支援体制的报告

日本和岩手正在实现多样化。以加强与外国人的交流为目标

随着日本人口的急剧减少和劳动力短缺的加剧，不仅日本全国以及岩手县的外国人比例在增加，而且外国人的国籍和文化背景也呈现多样化。如何在尊重文化差异的同时，更好地与外国人交流？岩手县国际交流协会于2025年2月14日（星期五）就这一主题举行了题为“在突发情况下考验异文化交流的力量”的小组讨论，以来自不同国家和具有不同背景的人的经验为基础。以下是当天讨论的内容。

让我们来听一听热爱日本生活的费里斯先生和可以理解日本人和外国人的感受的西泽先生，他们对日本社会和生活的感受。

以貌取人

西泽先生是一位有着巴基斯坦血统的日本人，同时也是一位穆斯林。西泽先生指出很多日本人容易以貌取人。西泽先生说自己不会用英语交谈，待人接物时日本人对我也不使用敬语，当我用一般的日语回答他们时，日本人会感到惊讶。他拿出自己与混血儿和外国友人的合影，他说：“乍一看，这可能是一群外国人，人们可能会用疑惑的眼光看着我，但我们都在用日语谈论日本话题。而且有些人只会说日语。你的长相并不能说明什么”。

当你是外国人时，负面的东西就会被强调!?

费里斯先生提到，媒体过度报道外国人的负面形象令他感到困扰。当

他攀登富士山时，一位电视摄制组人员向他采访，他被告知他们只关注“不遵守道德规范”的外国人。当他得知他们只是为了配合早已准备好的故事情节而报道那些“不遵守道德规范、造成观光公害问题”的外国人时，他感到非常震惊。他还说，他的一些日本朋友在没有恶意的情况下认为，外国人越多，犯罪就会越多，尽管事实并非如此，但对外国人持有偏见为此感到非常遗憾。此外，外国人似乎经常受到过度地批评和指责，即使他们做的事情与日本人一样，比如“如果一群外国人在外面大声喧哗，立即有人会报警，但如果一群日本人比外国人更加大声地喧哗，也不会被报警”。

更好沟通的关键是消除假设

当天两位小组成员的发言让我意识到，许多日本人都认为外国人或看起来像外国人的人一定是「○○___」。首先，不仅仅是与外国人，认

识到并减少这种假设是建立更好关系的关键。

根据松冈教授的经验“当你把学生送到夏令营一周左右时，在某个时刻，他们会从XX人变成XX人”。如

何接受来自不同文化背景的人，没有正确的答案，但我认为第一步是把他们当作平等的一方来面对，并希望更好地了解他们。岩手县国际交流协会愿为创造这样的机会做出更大的贡献。

进展与解说

松冈 洋子女士

岩手大学国际教育中心 教授

专攻日语教育、移民政策和多元文化交流。负责留学生的日语教育和大学日语教师的培训。

小组成员

威廉-费里斯先生

生于美国。在日本生活了20多年。通过户外向导和入境导游，参与接待和处理访日外国游客，主要在东北地区和日本全国各地。

西泽 沙罗夫先生

日本人，混血儿—父亲是巴基斯坦人，母亲是日本人。他在巴基斯坦生活了六个月。作为一名穆斯林，他在盛冈清真寺有很多机会接触到来自不同国家和种族的人。

令和6年度 岩手県国際交流協会 主要事業実施状況

岩手県国際交流協会では、大きく3つの柱として「1.地域に根ざした国際交流・理解の推進」、「2.多文化共生の地域づくり」、「3.次代を担う人づくり」を掲げ、事業を進めています。令和6年度に実施した事業の一部をご紹介します。

地域に根ざした国際交流・理解の推進

地域国際化人材育成研修

市町村や市町村国際交流協会、国際交流関係団体等の職員を対象として多文化共生について学ぶ研修です。今年度は新たな在留資格である「育成就労」について、「外国人相談」について行いました。

地域国際化推進会議

県内4地域(県央、県北、県南、沿岸)で、地域における国際化・多文化共生推進や、相互の連携強化を目的とし、市町村と市町村国際交流協会を対象に例年開催しています。今年度は、県の国際交流施策、県国際交流協会事業の説明、各地域の国際交流・多文化共生推進の取組状況について情報交換をしました。

国際交流関係団体等の活動助成

今年度は、13件の助成を行いました。

多文化共生の地域づくり

外国人との交流会「ちゃっとランド」

アイーナでの定期開催(7回)のほか、矢巾町と、大船渡市で開催しました。

2024 ワン・ワールド・フェスタ in いわて(11/17)

アイーナの4階、5階を会場に、体験ブースでの触れ合いや外国文化紹介などを行い、前年を上回る延べ3,800人を超える方にご来場いただきました。

身近な国際協力～フェアトレード～(10/20)

(有)ネバリ・バザーロの土屋春代さんによる講演会、JICA海外協力隊員現地報告、フェアトレード商品の販売を行いました。

オンライン日本語教室(県委託)

在住外国人が地域で暮らしていくために必要な基礎的な日本語能力を身に付けられるよう、有資格者の日本語教師が初期指導を行います。R6年度は、ひらがな・カタカナコース、入門コース、初級コースを開講しました。(年間受講者数:65人)

日本語教室開設サポート(県委託)

紫波町国際交流協会での日本語教室の走り出し支援を行いました。新たに11月から教室がスタートしています。

日本語サポーターの登録・育成と活用

日本語サポーターとして登録していただいた方を、県内在住の外国人の方から日本語学習の依頼があった際に紹介し、活動いただいています。(登録者147人、依頼件数49件※2月末時点)

いわて外国人県民相談・支援センターの運営(県委託)

英語、中国語、ベトナム語、韓国語の相談員を配置して相談に対応しています。在留資格などの相談については、岩手県行政書士会の協力のもと対応をしているほか、弁護士による相談対応も隔月で行っています。また、今年度は仙台出入国在留管理局と連携し、相談会を実施しました。

外国人患者受入体制整備

NPO等との協働で、川久保病院にて、外国人医療相談会を実施しました。(参加人数:19名)

災害時の外国人支援(県委託)

大規模災害時に当協会が運営予定の「災害時多言語支援窓口」の運営訓練として、今年度は、東北・北海道の各地域国際化協会とオンラインで結んでの多言語での相談時の通訳対応や、共有ファイルを介した遠隔からの翻訳支援の訓練を実施しました。また、災害時のサポーター制度につきましても、外国語の能力を問わずご登録いただけるようになりました。

多言語通訳者の育成【新規】

12月5日に、医療通訳入門研修会を開催しました。医療通訳として活動するSEMIさっぽろより講師をお迎えし、医療通訳の概要についての講義とロールプレイを行いました。

次代を担う人づくり

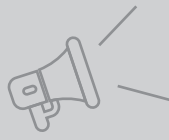
いわてグローバル人材育成推進協議会の運営(県委託)

産学官が連携する「いわてグローバル人材育成推進協議会」の事務局として、グローバルな視点を持ち、地域に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。今年度は、日本人学生7名の海外留学を支援しました。また、外国人等のグローバル人材の岩手での就職・定着に向け、グローバルキャリアフェアの開催、県内企業訪問などを行いました。

聞いて！わたしの自慢

Listen Up! What I Am Proud Of

听！这是我最引以为豪的



県内在住外国人の方が、皆様にぜひ聞いてほしいことを紹介します！
Introducing things the foreign residents of Iwate want everyone to know!
介绍给大家居住在县内的外国人最想传达的事情！

ポップダンス

カエキクン (中国)

皆さんはポップダンスをご存じでしょうか。ポップダンス(Popping)は、ストリートダンスの一種です。ポップダンスは、曲のビートに合わせて全身の筋肉を一瞬振動させる特徴があります。また、ロボットのようによく、ゆっくりと動く踊りかたもあります。ときに、ロボットダンスとして認識されますが、その踊り方が実に多種多様で、いろいろなジャンルの踊り方を取り込んでいます。

私は、10年ほど前にポップダンスを始めました。テレビで見たあるダンサーのショーがきっかけでした。カタカタと動き、関節を捻じ曲げ、前に歩くと見せかけて後ろに滑るムーンウォークの格好良さに感動しました。そのため、私はダンススクールに入り、ポップダ

ンスを学び始めました。練習で上達し、それなりに技を覚えて、当初懂れていた、カタカタ動く踊り方も身に着けました。

留学生として来日し、大学に入って半年経った後、私は友達から紹介してもらい、ダンスサークルの一員になりました。ストリートダンスは、事前に振り付けをせず、アドリブで踊ってダンスを楽しむやり方があります。皆で集まり、一人ずつ1~2分間曲を聴きながらアドリブで踊ることを、サイファーと言います。私は、このような踊り方に結構馴染んでいるので、サイファーでかなり楽しんでいました。サイファーだけに限らず、私はショーケースにも参加するようになりました。ショーケースは、事前に決めた振り付けで集団で踊って、ダンサーに限らず、経験者でない方々にも披露するものです。私は「アドリブ」派で最初のころは不慣れでした。しかし、ショーケース派のプロたちは、こんな私でも、気にせず誘ってくれました。私はだんだんショーケースに慣れてきて、皆と一緒にショーケースをいくつか出し、さらに自分の技を高めることができました。そして何よりも、とてもいい人たちと、楽しい時間を過ごせました。

ポップダンスは、私の人生を彩った不可欠なものだと思います。今後は技を高め、いろいろな人とのつながりができるようになりたいと思います。そして何十年後も、年をとっても、健康で元気よく、皆とダンスを楽しみたいと思います。



illustration generated
by ChatGPT-4o

Pop Dance

HE YIJUN (China)

Do you know a style of dance called popping? Popping is a form of street dance characterized by quickly contracting and releasing muscles in sync with the beat of the music. It also includes movements like a robot, with slow and rigid actions. Sometimes, people might mistake popping for robotic dance, but popping is not limited to that, as it encompasses a wide variety of techniques from many dance styles.

I started practicing popping ten years ago. I was watching a show featuring a dancer on TV, and at that time, I was deeply fascinated by his “stuttering” body movements, the way he bent his joints, and the moonwalk that seemed to move forward but actually glided backward. This inspired me to join a dance class and start learning popping. Through the practice, I improved my techniques and finally learned how to do the “stuttering” dance moves I had admired so much.

As an international student coming to Japan, I started university life and after six months, I joined a street dance club with my friend's introduction. Within street dance, there is a style called freestyle dancing, where movements are not pre-arranged. Everyone takes turns dancing to the music for 1-2 minutes. We call this a “cypher”. I am very comfortable with freestyle dancing, so I always enjoyed cypher sessions. Including cypher, I also participated in showcases. Showcases usually involve a group dance with pre-arranged movements, presented to audiences that includes both dancers and non-dancers. Since I was more comfortable with freestyle, I initially struggled with showcases. However, the “experts” at showcases didn't mind my lack of skill and still invited me to perform with them. Gradually, I got used to showcases and improved my technique. Most importantly, I had a great time with a group of incredibly kind people.

Popping has enriched and has become an indispensable part of my life. In the future, I want to improve

my skills and connect with more people through popping. Even after decades, even as I grow older, I hope to stay healthy and vibrant, continuing to enjoy the joy of dancing with everyone.

Pop舞蹈

何奕君 (中国)

不知大家是否知道一种叫Popping的舞蹈。Popping是一种街舞，其特征是随着音乐的鼓点在一瞬间震动肌肉。也有像机器人一般的跳法，动作缓慢而坚硬。有时，大众会认为Popping是机械舞，但Popping不局限于机械舞，其跳法多种多样，吸收了很多舞蹈的风格。

我从十年前就开始练习Popping。当时，我看到电视上舞者的表演，那种让身体卡顿的动作，关节的弯曲，看起来是向前，其实是向后滑行的太空步让人非常心动。因此，我报名参加舞蹈班，开始学习Popping。通过练习，我逐渐进步，掌握了一些技巧，也学会了最初向往的那种“身体卡顿”般的舞蹈动作。

作为留学生来到日本，进入大学半年后，通过朋友介绍，我加入了大学的街舞社团。在街舞中，有一种方式是即兴跳舞，而即兴跳舞事先并不安排动作。大家聚在一起，每人听着音乐即兴舞蹈，跳1到2分钟，我们把这种方式称作cyp-her。由于我非常习惯即兴跳舞，所以我很享受cypher的时间。Cypher之外，我还参加过舞台演出。舞台演出一般以多人齐舞的方式，表演事先决定的动作，其面向的对象不局限于舞者，也包括不跳舞的人群。因为是即兴派，所以我刚开始不习惯齐舞。但齐舞“专家”们不介意我跳得差，依然邀请我参加齐舞。就这样，我也逐渐习惯了舞台演出，技术也提高了不少。最重要的是，我和一群非常友好的人度过了一段非常快乐的时光。

Popping丰富了我的人生，对我来说是不可或缺的舞蹈。从今以后，我想提高技术，通过Popping结识更多的人。数十年后，即使年事已高，我也要健康而充满活力，和大家一起享受舞蹈的乐趣。

わたしのおもひで

Personal Memories / 我的回忆录



ムンフザヤ ツェツェオユン

Tsets-Oyun Munkhzaya(モンゴル)

モンゴルでの素晴らしい経験

モンゴルのドルノゴビ県にハマル寺院というパワースポットがあります。私は、日本に来る前に家族と一緒に去了。その場所はとても強いオーラを放っていました。一番興味深かったことは、私がそこでささやいた願い事がすべて叶ったことです。今でも行ってよかったと思っています。そこは、願いが叶う寺院としても有名なので、いつも観光客がいます。また、春には桜が咲き誇り、とても美しいです。モンゴルで訪問すべき最も素晴らしい場所のひとつです。私はパワースポットの近くのキャンプに泊りました。ドルノゴビ県のおすすめ料理はジンビーと呼ばれる茹でた肉の料理でした。とってもおいしいですよ。そこで、朝早く起きて朝日を見ると、力が湧いてきます。

多くの人が一生涯に一度は訪れたい場所だと思っています。あなたもぜひ行って、エネルギーを感じてみてください。

Wonderful Experience in Mongolia

There is a spiritual energy tower called Hamar Monastery in Dornogovi Province, Mongolia. I went there with my family before coming to Japan. The place has a very strong aura. The most interesting thing is that every wish I whispered there came true. I'm still glad I went there. It is famous for being a shrine where wishes come true, so there are always tourists. It is also beautiful in spring because cherry blossoms bloom there. It is one of the most amazing places you should visit in Mongolia. I took a one-night trip to a camp near the spiritual energy tower. The recommended dish in Dornogovi Province is boiled meat called Jimby. It's really delicious. Waking up early in the morning and watching the sunrise gave me energy.

Many people think it is a place they must visit in their lifetime. You too can go there and feel the energy.

在蒙古的奇妙经历

在蒙古东戈壁省，有一个叫哈马尔寺的能量圣塔。在来日本之前，我和家人一起去了那里。那个地方有非常强烈的气场。最有意思的是，我在那里许下的每一个心愿都实现了。我至今仍然很高兴去过那里。作为一个心愿实现的圣地而闻名，经常有游客到来。此外，在春天樱花盛开，景色也很美丽。它是蒙古最令人惊叹的旅游胜地之一。我还特意去了能量圣塔附近的一个露营地，在那儿住了一晚。东戈壁省的佳肴是吉姆比的煮肉，非常美味。在清晨早起后看日出也让我充满了能量。

许多人认为这是一个一生中至少必去一次的地方。你也可以去那里感受那股能量。